

## 令和四年度 入学式 式辞

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年と同様次第の一部を割愛し、出席者の規模を縮小しての挙行となりましたことは、誠に残念ではありますが、皆様にご理解とご協力を賜っておりますことを心より感謝申し上げます、式辞を述べさせていただきます。

ただいま、入学を許可しました本校60期生となる472名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、高校への進学を目指し、コロナ禍という不安な中、努力を積み重ね、入学試験という試練を乗り越え、晴れて本日を迎えられました。これまでの努力に敬意を表しますとともに、教職員一同、入学を心から祝福し歓迎します。そして、お子様をここまで見守り、支えてこられました保護者の皆様には、心からお祝い申し上げます。

本校は、今年開校から60回目の入学式を迎えました。1963年に現学園長中村有三先生により開校されました。当時、日本社会は、まさに高度経済成長期を迎えており、物質面において豊かな国となりました。しかし、物欲に満たされ始める中で、道徳心の喪失を悲観した先生は、「これから迎える新しい時代が、どんな時代であっても本校の目指す学校とは、『正直・純潔・無私・愛』の道義標準に基づく道徳理念を培い、知育・徳育・体育を以て人格の陶冶と錬成をはかり、つねに国際的視野に立って、世界平和と社会の福祉に貢献できる人材の育成を期すること。」とし、これを本校の建学の精神としました。そして、現在本校は、皆さんもご存じのように硬式野球部や男子サッカー部の全国制覇を始めとするスポーツ校として、学習面においても有名国公立大学への進学実績を出している高校として知られる存在となりました。また、卒業生においても県内はもちろん全国、世界と様々な地域・分野で活躍しております。

さて、現在私達のおかれている社会は、国際情勢の先行きや新型コロナ感染症などといった不安な状況下にあります。新入生の皆さんにとっても、本校での3年間をどのように過ごしたらいいのか様々な期待と不安で一杯だと思えます。そんな皆さんに私から2つの事をお話します。

一つ目は、今年度の新入生から高校の新学習指導要領が年次進行で実施されます。これは、皆さんがこれからの未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育てることを目指しています。本校としても主体的・対話的での深い学びの実現にむけた授業展開を考え、そのためのICT環境整備と活用の充実を進めたいと考えてます。そして、成人年齢が20歳から18歳に引下げられたことです。つまり、皆さんは、高校在学中に段階的に成人年齢に達するということであり、社会の形成に主体的に参画できる資質・能力を身に付け無ければならないと言うことです。

そこで高校生活で心掛けて欲しいことは、自らの意志で高校進学を決めた以上、進級や卒業は、皆さんの頑張り次第だということです。大切なことは、皆さん自身が、主体的な姿勢で自分を高めていくことであり、「やらされる」のではなく「進んでやる」という姿勢が、進路の実現や部活動の成果に必ず繋がると言う事です。将来への様々な選択肢が用意された高校の三年間で、自分の進むべき道を前向きに模索してください。

二つ目は、「夢」を持つという事です。是非、夢を持って高校生活を送って欲しいと思います。今年

度から本校の目指す学校の標語を「スチューデントファースト」から「夢ありてこそ」に変えました。新入生の皆さんの中には、本校に夢を抱いて入学を決めた人もいます。現学園長中村有三先生は、60年前に「若者たちの明日のために、大きな夢を与えたい。」という熱い思いで本校を開校しました。当時32歳の中村有三先生は、夢を叶えられた理由を次のように語っています。「夢ありてこそ、情熱と確信が生まれた。やってやれないことはない。やれないのは、やらないからだ。」と。

現在、本校卒業生は、26,580名となりました。私もその一人です。一人の「大きな夢」が、これだけ多くの人の人生を育てました。開校から60年目を迎えた今年度から初心に返って、「夢ありてこそ」を本校の目指す学校の標語とします。

結びに、保護者の皆様にご挨拶申し上げます。本日から三年間、本校の生徒としてお子様をお預かりし、全職員で教育をして参ります。しかし、教育は、家庭、学校が一体となり、お互いが協力し合うことで成果が上がると考えます。どうか、本校の教育方針をご理解いただき、ご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新入生の皆さんの高校生活が充実したものになりますよう祈念し、式辞の挨拶といたします。

令和4年4月8日

学校法人 群馬育英学園

前橋育英高等学校

校長 金子 雅人